

動物の診察室から

○ 6 ○

飼い主さんと同じリウマチと闘うトップくん

「僕は、ミニチュアダックスのトップです。今月八歳の誕生日を迎えることができました。僕は、生後一歳くらいから、脚の節々が痛くなり始めました。はじめは何の病気がわからないまま、痛みを抑えてもらっていましたが、半年後、関節リウマチと診断されました。この病気は僕たち犬の中では珍しい病気で、免疫が関係していく治ること

がないそうです。お薬で免疫を抑え、なるべく進行が遅くなるようにしていますが、僕の手首とかとの関節はほとんど骨が溶けてしまって、今はぶらぶらになってしまっています。片方の手首は、ぶらぶらになつた関節にお水がたまっていたのです

が、表面の皮膚に穴が開いてしまいました。でも、僕のママ（飼い主さん）は、こんな僕を一生懸命看護してくれて、毎日お薬を塗つて包帯を替えてくれます。

僕もガンバルわん！

「先回のコラムで、獣医師になって不思議なこ

るので、僕ガンバルわん！」
手が痛い時にも僕の面倒を見てくださいました。僕の手首も足首もぶらぶらで、僕はママに愛され、幸せに生活しています。ママもがんばってください！



飼い主と共に闘病生活

つぱい調べてくれました。ママの病気もだんだん進行していき、何回かの手術を受けて、手首の関節を固定してもらつたのです。ママは自分の

手が痛い時にも僕の面倒を見てくださいました。僕の手首も足首もぶらぶらで、僕はママに愛され、幸せに生活しています。ママもがんばってください！

書きました。トップ君の場合もそうだと思います。これは、神様がリウマチの飼い主

とがたくさんありますと書いて、トップ君はそれに応えてがんばつていま

す。これは、神様がリウマチの飼い主